

売上の一部をパラオ基金させて頂きました。

皆様の PMG ノニのご愛用、誠にありがとうございます。

パラオ基金のご報告

2012年12月・2013年11月上旬にフィリピンを襲った台風は、太平洋の島国パラオの一部にも壊滅的な被害を与えました。

地球温暖化の影響か、パラオは本来台風が来ないところですが、台風が立て続けにきています。

パラオでは、台風のような風速50・60メートルを想定はしていません。ですから、家屋も日本とは違い、風に非常に弱い構造です。簡単に言えばトタン屋根で、強烈な日差しとスコールをしのぐだけの簡単なものです。

今回の台風により、パラオの北端カヤンゲル州での全戸倒壊を含め、家屋300戸以上が被害を受けています。

カヤンゲル州の少し南にあるアルモノグイ州も民家など被害を受けましたが、幸いノニ工場は被害がありませんでした。

さて、今回 PMG では、売上の一部を『災害復興基金』として2万ドル(約200万円)をパラオ基金させて頂きました。また、日本政府も200万円相当の緊急援助物資をパラオに提供しています。

PMG ノニをご愛用頂いている皆様のおかげで、パラオの復興の助けができましたこと、感謝申し上げます。

パラオでは、地球温暖化の影響により、海面が上昇して既にビーチが無くなってしまった島もあり、日本では気付きにくいですが、確実に被害が拡大しています。

PMG では、自然の宝庫であるパラオの恵みノニを頂いていますので、皆様にご愛用頂いた一部をパラオ基金としてパラオの為に貢献させて頂いています。今後共、PMG ノニのご愛用の程、よろしくお願い申し上げます。



PMG ノニご愛用者様とタミー・レメンゲサウ大統領との表敬訪問



PMG ノニご愛用者様とチョウカイ校長先生との交流

もう一つ、パラオ基金させて頂きましたので、ご報告させて頂きます。

今回、モドグゲイ学校に千ドル(約10万円)をパラオ基金させて頂きました。

パラオは、戦時中には日本の委任統治領でした。一時は、パラオ人の人口より多い日本人が海を渡ってパラオに移り住み、学校ではパラオ人に日本の教育をしていた時期もあります。

当時の日本人によって、橋や道路・電気などが整備され、真面目に働く日本人の姿を見てパラオ人は大きな感銘を受けています。

実は、今でもパラオ人が感謝しているのは、『日本人の精神』がパラオに入っていることです。

当時の日本人は、どんなに空腹でも現地に植わっている芋などを取って食べることはしませんでした。それは、パラオ人からものを盗む行為にあたってしまうからです。

このような日本人の精神は、今でもパラオ人は子供達に伝えています。

パラオの子供達の役に立てて欲しいと思い、チョウカイ校長先生にパラオ基金をお渡しさせて頂きました。